

既存添加物名簿収載品目リスト

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
令和7年2月7日現在
(H27.3.30消費第139号通知別添をもとに作成)

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
1	アウレオバシジウム培養液 (アウレオバシジウム培養液から得られた、β-1,3-1,6-グルカンを主成分とするものをいう。)			黒酵母 (Aureobasidium pullulans) の培養液より、分離して得られたものである。主成分はβ-1,3-1,6-グルカンである。	増粘安定剤	Aureobasidium cultured solution
2	アガラゼ			※	酵素	Agarase
3	アクチニジン			※	酵素	Actinidin
4	アグロバクテリウムスクシノグリカン (アグロバクテリウムの培養液から得られた、スクシノグリカンを主成分とするものをいう。)	スクシノグリカン		※	増粘安定剤	Agrobacterium Succinoglycan
5	アシラーゼ			※	酵素	Acyase
6	アスコルビン酸オキシダーゼ	アスコルベートオキシダーゼ ビタミンCオキシダーゼ	オキシダーゼ V.Cオキシダーゼ	※	酵素	Ascorbate Oxidase
7	L-アスパラギン		アスパラギン	※	調味料 強化剤	L-Asparagine
8	L-アスパラギン酸		アスパラギン酸	※	調味料	L-Aspartic Acid
9	アスペルギルスステレウス糖たん白質 (アスペルギルスステレウスの培養液から得られた、糖タンパク質を主成分とするものをいう。)	ムタステイン		※	製造用剤	Aspergillus Terreus Glycoprotein
10	α-アセトラクタートデカルボキシラーゼ		リアーゼ	※	酵素	α-Acetolactate Decarboxylase
11	5'-アデニル酸	アデノシン5'-リン酸	5'-AMP	※	強化剤	5'-Adenylic Acid
12	アナトー色素 (ベニノキの種子の被覆物から得られた、ノルピキシン及びピキシンを主成分とするものをいう。)		アナトー カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	ベニノキ科ベニノキ (Bixa orellana LINNE) の種子の被覆物より、熱時油脂若しくはプロピレングリコールで抽出して得られたもの、室温時ヘキササン若しくはアセトンで抽出し、溶媒を除去して得られたもの、又は熱時アルカリ性水溶液で抽出し、加水分解し、中和して得られたものである。主色素はピキシン及びノルピキシンである。黄色～橙色を呈する。	着色料	Anatto Extract
	アナトー色素 (ノルピキシン)	ノルピキシン	アナトー (ノルピキシン)	※		
	アナトー色素 (ピキシン)	ピキシン	アナトー (ピキシン)	※		
13	アマシードガム (アマの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		アマシード	アマ科アマ (Linum usitatissimum LINNE) の種子の胚乳部分より、室温時～温時水又は含水アルコールで抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Linseed gum Linseed extract
14	アミノペプチダーゼ			※	酵素	Aminopeptidase
15	α-アミラーゼ	液化アミラーゼ G3分糖酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	α-Amylase
16	β-アミラーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	β-Amylase
17	L-アラニン		アラニン	※	調味料 強化剤	L-Alanine
	L-アラニン液			※		L-Alanine Solution
18	アラビアガム (アカシアの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	アカシアガム	アカシア	※	増粘安定剤	Gum Arabic Arabic Gum Acacia Gum
19	アラビノガラクトラン			マツ科セイヨウカラマツ (Larix occidentalis NUTT.) 又はその他同属植物の根又は幹より、室温時水で抽出して得られたものである。成分は多糖類 (構成糖はガラクトース、アラビノース等) である。	増粘安定剤	Arabino galactan
20	L-アラビノース		アラビノース	※	甘味料	L-Arabinose
21	L-アルギニン		アルギニン	※	調味料 強化剤	L-Arginine
22	アルギン酸	昆布類粘質物		※	増粘安定剤	Alginate Acid
23	アルギン酸リアーゼ			※	酵素	Alginate Lyase
24	アルミニウム	アルミ末		²⁷ Al	着色料	Aluminium
25	アントシアナーゼ			※	酵素	Anthocyanase
26	イソアミラーゼ	枝切り酵素		※	酵素	Isoamylase
27	イソアルファー苦味酸 (ホップの花から得られた、イソフムロン類を主成分とするものをいう。)	イソアルファー酸	ホップ	※	苦味料等	Iso-α-bitter Acid
28	イソマルトデキストラナーゼ			※	酵素	Isoamaltodextranase
29	イナワラ灰抽出物 (イネの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)	ワラ灰抽出物	植物灰抽出物	イネ科イネ (Oryza sativa LINNE) の茎又は葉を灰化したものより、室温時水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。	製造用剤	Rice straw ash extract
30	イヌリナーゼ	イヌラーゼ		※	酵素	Inulinase
31	イノシトール	イノシット		「フィチン酸」を分解したものより、又はアカザ科サトウダイコン (Beta vulgaris LINNE var. rapa DUMORTIER) の糖液又は糖蜜より、分離して得られたものである。成分はイノシトールである。	強化剤	Inositol
	myo-イノシトール	myo-イノシット		※		myo-Inositol
32	インベルターゼ	サッカラーゼ スクラーゼ スクラーゼ		※	酵素	Invertase
33	ウェランガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			※	増粘安定剤	Welan Gum
34	ウコン色素 (ウコンの根茎から得られた、クルクミンを主成分とするものをいう。)	ターメリック色素 クルクミン	ウコン	※	着色料	Turmeric Oleoresin Curcumin
35	ウルシロウ (ウルシの果実から得られた、グリセリンパルミタートを主成分とするものをいう。)			※	ガムベース 光沢剤	Urushi Wax
36	ウレアーゼ		アミダーゼ	※	酵素	Urease
37	エキソマルトテトラオヒドラーゼ	G4生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Exomaltotetrahydrolase
38	エステラーゼ			※	酵素	Esterase
39	エレミ樹脂 (エレミの分泌液から得られた、β-アミリンを主成分とするものをいう。)			※	増粘安定剤 ガムベース	Elemi Resin
40	塩水湖水低塩化ナトリウム液 (塩水湖水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、アルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類を主成分とするものをいう。)		塩水湖水ミネラル液	※	調味料	Sodium Chloride-decreased Brine (Saline Lake)
41	オゾクライト	セレシン		ワックスシュールの鉱脈に含まれるロウを精製したものである。主成分はC29～C53の炭化水素である。	ガムベース	Ozokerite
42	オゾン			O ₃	製造用剤	Ozone

既存添加物名簿記載品目リスト

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
令和7年2月7日現在
(H27.3.30消費表第139号通知別添をもとに作成)

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
43	オリゴガラクトチュロン酸			「ペクチン」をペクチナーゼで酵素分解し、限外ろ過して得られたものであって、ガラクトチュロン酸の1~9量体の混合物からなる。	製造用剤	Oligogalacturonic acid
44	γ-オリザノール (米ぬか又は胚芽油から得られた、ステロールとフェルラ酸及びトリテルペンアルコールとフェルラ酸のエステルを主成分とするものをいう。)		オリザノール	※	酸化防止剤	γ-Oryzanol
45	オレガノ抽出物 (オレガノの葉から得られた、カルバクロール及びチモールを主成分とするものをいう。)			シソ科オレガノ (<i>Origanum vulgare</i> LINNE) の葉より、室温時~温時エタノール、含水エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。成分としてチモール及びカルバクロールを含む。	製造用剤	Oregano extract
46	オレンジ色素 (アマダイダイの果実又は果皮から得られた、カロテン及びキサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素 果実色素	ミカン科アマダイダイ (<i>Citrus sinensis</i> OSBECK) の果実又は果皮より、搾汁したもの、又は熱時エタノール、ヘキサン若しくはアセトンで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主色素はβ-クリプトキサンチンの脂肪酸エステルである。黄色を呈する。	着色料	Orange colour
47	海藻灰抽出物 (褐藻類の灰化物から得られた、ヨウ化カリウムを主成分とするものをいう。)			褐藻類を焼成灰化したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はヨウ化カリウムである。	製造用剤	Seaweed ash extract
48	カオリン	白陶土	不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Kaolin
49	カカオ色素 (カカオの種子から得られた、アントシアニンの重合物を主成分とするものをいう。)	ココア色素	カカオ フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料	Cacao Color
50	カキ色素 (カキの果実から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		果実色素 フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料	Japanese Persimmon Colour
51	花こう斑岩		花こう斑岩	花こう斑岩を洗浄、粉砕したものを、乾燥後、滅菌して得られたものである。	製造用剤	Granite porphyry
52	カシヤガム (エビスグサモドキの種子を粉砕して得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	カシヤガム		マメ科エビスグサモドキ (<i>Cassia tora</i> LINNE) の種子の胚乳部を、粉砕して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Cassia gum
53	カタラーゼ		オキシダーゼ	※	酵素	Catalase
54	活性炭 (含炭素物質を炭化し、賦活化して得られたものをいう。)			※	製造用剤	Active Carbon
55	活性白土		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Activated Acid Clay
56	ガティガム (ガティノキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		ガティ	※	増粘安定剤	Gum Ghatti
57	カテキン			ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の茎若しくは葉、マメ科ベグアセンヤク (<i>Acacia catechu</i> WILLD.) の幹枝又はアカネ科ガンビール (<i>Uncaria gambir</i> ROXBURGH) の幹枝若しくは葉より、乾燥した後、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたもの、又は熱時水で抽出した後、メタノール若しくは酢酸エチルで分配して得られたものである。成分はカテキン類である。	酸化防止剤	Catechin
58	カードラン (アグロバクテリウム又はアルカリゲネスの培養液から得られた、β-1,3-グルカンを主成分とするものをいう。)		ブドウ糖多糖	※	増粘安定剤 製造用剤	Curdian
59	カフェイン (抽出物) (コーヒーの種子又はチャの葉から得られた、カフェインを主成分とするものをいう。)		カフェイン	※	苦味料等	Caffeine (Extract)
60	カラギーナン (イバノリ、キリンサイ、ギンナンソウ、スギノリ又はツノマタの全葉から得られた、i-カラギーナン、k-カラギーナン及びl-カラギーナンを主成分とするものをいう。) 加工ユーケマ藻類 精製カラギーナン ユーケマ藻末	カラギーナン カラゲナン カラゲーナン カラゲニン	ユーケマ 紅藻抽出物 ユーケマ	※ ※ ※	増粘安定剤	Carrageenan Semirefined Carrageenan Processed Eucheuma Algae Processed Red Algae Purified Carrageenan Refined Carrageenan Powdered red algae
61	α-ガラクトシダーゼ	メリビアーゼ	カルボヒドラーゼ	※	酵素	α-Galactosidase
62	β-ガラクトシダーゼ	ラクターゼ	カルボヒドラーゼ	※	酵素	β-Galactosidase (Lactase)
63	カラシ抽出物 (カラシの種子から得られた、イソチオシアニド酸アリルを主成分とするものをいう。)		マスタード抽出物	※	製造用剤	Mustard Extract
64	カラメルI (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物を熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルII」、「カラメルIII」及び「カラメルIV」を除く。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel I (Plain caramel)
65	カラメルII (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルIV」を除く。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel II (Sulfite caramel)
66	カラメルIII (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルIV」を除く。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel III (Ammonia caramel)
67	カラメルIV (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel IV (Sulfite ammonia caramel)
68	カラヤガム (カラヤ又はキバナワタモドキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		カラヤ	※	増粘安定剤	Karaya Gum
69	カルナウバワックス (ブラジルロウヤシの葉から得られた、ヒドロキシセロチン酸セリルを主成分とするものをいう。)	カルナウバワックス ブラジルワックス	植物ワックス	※	ガムベース 光沢剤	Carnauba Wax Brazil Wax
70	カルボキシペプチダーゼ			※	酵素	Carboxypeptidase
71	カロブ色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られたものをいう。)		カロブ カロブジャーム フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料 製造用剤	Carob Germ Color
72	カロブビーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解し、沈殿して得られたものをいう。)	ローカストビーンガム	ローカスト	※	増粘安定剤	Carob Bean Gum Locust Bean Gum
73	カワラヨモギ抽出物 (カワラヨモギの全草から得られた、カピリンを主成分とするものをいう。)		カワラヨモギ	※	保存料	Rumpu Roman Extract

既存添加物名簿収載品目リスト

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
令和7年2月7日現在
(H27.3.30消費表第139号通知別添をもとに作成)

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
74	カンゾウ抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、グリチルリチン酸を主成分とするものをいう。)	カンゾウエキス グリチルリチン リコリス抽出物	カンゾウ カンゾウ甘味料 リコリス	ウラルカンゾウ (Glycyrrhiza uralensis Fischer)、チョウカカンゾウ (Glycyrrhiza inflata Batalin)、ヨウカンゾウ (Glycyrrhiza glabra Linne)、又はそれらの近縁植物の根若しくは根茎から得られた、グリチルリチン酸を主成分とするものである。本品には、粗製物と精製物がある。	甘味料	Licorice Extract
	カンゾウ抽出物 (粗製物)	カンゾウエキス (粗製物) グリチルリチン (粗製物) リコリス抽出物 (粗製物)		※		Licorice Extract (Crude)
	カンゾウ抽出物 (精製物)	カンゾウエキス (精製物) グリチルリチン (精製物) リコリス抽出物 (精製物)		※		Licorice Extract (Purified)
75	カンゾウ油性抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		油性カンゾウ	※	酸化防止剤	Licorice Oil Extract
76	カンデリラロウ (カンデリラの茎から得られた、ヘントリアンタンを主成分とするものをいう。)	カンデリラワックス キャンデリラロウ キャンデリラワックス	植物ワックス	※	ガムベース 光沢剤	Candelilla Wax
77	キサンタンガム (キサントモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	キサンタン多糖類 ザンサンガム	キサンタン	※	増粘安定剤	Xanthan Gum
78	キシナーゼ			※	酵素	Xylanase
79	D-キシロース		キシロース	※	甘味料	D-Xylose
80	キチナーゼ			※	酵素	Chitinase
81	キチン			エビ、カニ等甲殻類の甲殻又はイカの甲を、室温時～温時酸性水溶液で炭酸カルシウムを除去した後、温時～熱時弱アルカリ性水溶液でタンパク質を除去したもので、N-アセチル-D-グルコサミンの多量体からなる。	増粘安定剤	Chitin
82	キトサナーゼ			※	酵素	Chitosanase
83	キトサン			「キチン」を、温時～熱時水酸化ナトリウム水溶液で脱アセチル化したもので、D-グルコサミンの多量体からなる。	増粘安定剤 製造用剤	Chitosan
84	キナ抽出物 (アカキナの樹皮から得られた、キニジン、キニネ及びシンコニンに主成分とするものをいう。)			アカネ科アカキナ (Cinchona succirubra PAVON) の樹皮より、水又はエタノール等で抽出して得られたものである。有効成分はキニネ、キニジン及びシンコニンである。	苦味料等	Redbark cinchona extract
85	キハダ抽出物 (キハダの樹皮から得られた、ベルベリンを主成分とするものをいう。)		キハダ	ミカン科キハダ (Phellodendron amurense Rupr.) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はベルベリンである。	苦味料等	Phellodendron bark extract
86	キラヤ抽出物 (キラヤの樹皮から得られた、サポニンに主成分とするものをいう。)	キラヤサポニン	サポニン	※	乳化剤	Quillaia Extract Quillaja Extract
87	金	金箔		¹⁹⁷ Au	着色剤 製造用剤	Gold
88	銀	銀箔		¹⁰⁷ Ag, ¹⁰⁹ Ag	着色剤	Silver
89	グァーガム (グァーの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。ただし、「グァーガム酵素分解物」を除く。)	グァーフラワー ゲアルガム	グァー	※	増粘安定剤	Guar Gum
90	グァーガム酵素分解物 (グァーの種子を粉砕し、分解して得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	グァーフラワー酵素分解物 ゲアルガム酵素分解物	グァー分解物	※	増粘安定剤	Enzymatically Hydrolyzed Guar Gum
91	グアヤク脂 (ユウボクの幹枝から得られた、グアヤコン酸、グアヤレチック酸及びβ-レジンに主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ユウボク (Guaiacum officinale LINNE) の幹枝を、加熱して得られたものである。有効成分は、グアヤコン酸、グアヤレチック酸及びβ-レジンである。	酸化防止剤	Guaiac resin
92	グアヤク樹脂 (ユウボクの分泌液から得られた、α-グアヤコン酸及びβ-グアヤコン酸を主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ユウボク (Guaiacum officinale LINNE) の分泌液を、室温時エタノールで抽出し、ろ液からエタノールを留去して得られたものである。主構成成分はα-、β-グアヤコン酸である。	ガムベース	Guajac resin (extract)
93	クエルセチン	クエルセチン	ルチン分解物	※	酸化防止剤	Quercetin
94	クチナン青色素 (クチナシの果実から得られたイリド配糖体とタンパク質分解物の混合物にβ-グルコシダーゼを添加して得られたものをいう。)		クチナン クチナン色素	※	着色剤	Gardenia Blue
95	クチナン赤色素 (クチナシの果実から得られたイリド配糖体のエステル加水分解物とタンパク質分解物の混合物にβ-グルコシダーゼを添加して得られたものをいう。)		クチナン クチナン色素	※	着色剤	Gardenia Red
96	クチナン黄色素 (クチナシの果実から得られた、クロシン及びクロセチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素 クチナン クチナン色素 クロシン	※	着色剤	Gardenia Yellow
97	グッタハンカン (グッタハンカンの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科グッタハンカン (Palaequium leiocarpum BOERL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去したもので、より得られたものである。主成分はトランスポリイソプレンを及びアミリンアセタートである。	ガムベース	Gutta hang kang
98	グッタベルカ (グッタベルカの分泌液から得られた、ポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科グッタベルカ (Palaequium gutta BURCK.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去したもので得られたものである。主成分はトランスポリイソプレンをである。	ガムベース	Gutta percha
99	クリストバル石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したクリストバル石を、粉砕乾燥、800～1200℃で焼成、又は塩酸処理して焼成したものである。	製造用剤	Cristobalite
100	グルカナナーゼ		カルボヒドラーゼ ヘミセルラーゼ	※	酵素	Glucanase
101	グルコアミラーゼ	糖化アミラーゼ	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Glucoamylase
102	グルコサミン			※	増粘安定剤 製造用剤	Glucosamine
103	α-グルコシダーゼ	マルターゼ		※	酵素	α-Glucosidase
104	β-グルコシダーゼ	ゲンチオビアーゼ セロビアーゼ		※	酵素	β-Glucosidase
105	α-グルコシルトランスフェラーゼ	4-α-グルカノトランスフェラーゼ 6-α-グルカノトランスフェラーゼ		※	酵素	α-Glucosyltransferase 4-α-Glucanotransferase 6-α-Glucanotransferase

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
106	α-グルコシルトランスフェラーゼ処理ステビア (「ステビア抽出物」から得られた、α-グルコシルステビオシドを主成分とするものをいう。)	酵素処理ステビア	ステビア ステビア甘味料 糖転移ステビア	※	甘味料	α-Glucosyltransferase Treated Stevia
	α-グルコシルトランスフェラーゼ処理ステビオール配糖体	酵素処理ステビオール配糖体		※		α-Glucosyltransferase Treated Steviol Glycosides
107	グルコースイソメラーゼ			※	酵素	Glucose Isomerase
108	グルコースオキシダーゼ			※	酵素	Glucose Oxidase
109	グルタミナーゼ		アマダーゼ	※	酵素	Glutaminase
110	L-グルタミン		グルタミン	※	調味料 強化剤	L-Glutamine
111	グレープフルーツ種子抽出物 (グレープフルーツの種子から得られた、脂肪酸及びフラボノイドを主成分とするものをいう。)		グレープフルーツ種子	ミカン科グレープフルーツ(Citrus paradisi MACF.)の種子より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分は脂肪酸及びフラボノイドである。	製造用剤	Grapefruit seed extract
112	クローブ抽出物 (クローブのつぼみ、葉又は花から得られた、オイゲノールを主成分とするものをいう。)	チョウジ抽出物	チョウジ油	フトモモ科チョウジ(Syzygium aromaticum MERRILL et PERRY)のつぼみ、葉又は花より、エタノール又はアセトンで抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留により得られたものである。主成分はオイゲノール等である。	酸化防止剤	Clove extract
113	クロロフィリン		葉緑素	「クロロフィル」を、温時アルカリ性エタノール水溶液で加水分解し、希塩酸で中和した後、含水エタノールで抽出して得られたものである。主成分はマグネシウムクロロフィリンである。緑色を呈する。	着色料	Chlorophylline
114	クロロフィル		葉緑素	※	着色料	Chlorophyll
115	くん液 (サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を燃焼して発生したガス成分を捕集し、又は乾溜して得られたものをいう。)	スモークフレーバー	木酢液 リキッドスモーク	※	製造用剤	Smoke Flavourings
116	ケイソウ土		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Diatomaceous Earth
117	ゲンチアナ抽出物 (ゲンチアナの根又は根茎から得られた、アマロゲンチン及びゲンチオピクロシドを主成分とするものをいう。)			※	苦味料等	Gentian Root Extract
118	高級脂肪酸 (動植物性油脂又は動植物性硬化油脂を加水分解して得られたものをいう。)		脂肪酸	動植物性油脂又は動植物性硬化油脂より、加水分解したもので得られたものである。	製造用剤	Higher Fatty Acid
	高級脂肪酸 (カプリル酸)		脂肪酸 (カプリル酸)	※		Higher Fatty Acid (Caprylic Acid)
	高級脂肪酸 (カプリン酸)		脂肪酸 (カプリン酸)	※		Higher Fatty Acid (Capric Acid)
	高級脂肪酸 (ステアリン酸)		脂肪酸 (ステアリン酸)	※		Higher Fatty Acid (Stearic Acid)
	高級脂肪酸 (パルミチン酸)		脂肪酸 (パルミチン酸)	※		Higher Fatty Acid (Palmitic Acid)
	高級脂肪酸 (ベヘニン酸)		脂肪酸 (ベヘニン酸)	※		Higher Fatty Acid (Behenic Acid)
	高級脂肪酸 (ミリスチン酸)		脂肪酸 (ミリスチン酸)	※		Higher Fatty Acid (Myristic Acid)
	高級脂肪酸 (ラウリン酸)		脂肪酸 (ラウリン酸)	※		Higher Fatty Acid (Lauric Acid)
119	香辛料抽出物 (アサノミ、アサフェチダ、アジョワン、アニス、アンゼリカ、ウイキョウ、ウコン、オールスパイス、オレガノ、オレンジピール、カショウ、カッシア、カモミール、カラシナ、カルダモン、カレーリーフ、カンゾウ、キャラウエー、クチナシ、クミン、クレソン、クローブ、ケシノミ、ケーパー、コショウ、ゴマ、コリアンダー、サッサfras、サフラン、サボリー、サルビア、サンショウ、シソ、シナモン、シャロット、ジュンベリー、ショウガ、スターアニス、スペアミント、セイヨウワサビ、セロリー、ソーレル、タイム、タマネギ、タマリンド、タラゴン、チャイブ、ティル、トウガラシ、ナツメグ、ニガヨモギ、ニジェラ、ニンジン、ニンニク、バジル、バセリ、ハッカ、バニラ、パプリカ、ヒソップ、フェネグリーク、ペパーミント、ホースミント、マジョラム、ミョウガ、ラベンダー、リンデン、レモングラス、レモンバーム、ローズ、ローズマリー、ローレル又はワサビから抽出し、又はこれを水蒸気蒸留して得られたものをいう。ただし、「ウコン色素」、「オレガノ抽出物」、「オレンジ色素」、「カラシ抽出物」、「カンゾウ抽出物」、「カンゾウ油性抽出物」、「クチナシ黄色素」、「クローブ抽出物」、「ゴマ油不けん化物」、「シソ抽出物」、「ショウガ抽出物」、「精油除去ウイキョウ抽出物」、「セイヨウワサビ抽出物」、「セージ抽出物」、「タマネギ色素」、「タマリンド色素」、「タマリンドシードガム」、「タンニン(抽出物)」、「トウガラシ色素」、「トウガラシ水性抽出物」、「ニガヨモギ抽出物」、「ニンジンカロテン」及び「ローズマリー抽出物」を除く。)	スパイス抽出物	香辛料 スパイス	※	苦味料等	Spice Extracts
120	酵素処理イソクエルシトリン (「ルチン酵素分解物」から得られた、α-グルコシルイソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)	糖転移イソクエルシトリン	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	※	酸化防止剤	Enzymatically Modified Isoquercitrin
121	酵素処理ナリンジン (「ナリンジン」から得られた、α-グルコシルナリンジンを主成分とするものをいう。)	糖転移ナリンジン	ナリンジン	「ナリンジン」とデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加させたものである。有効成分はα-グルコシルナリンジンである。	苦味料等	Enzymatically modified naringin

既存添加物名簿収載品目リスト

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
令和7年2月7日現在
(H27.3.30消費表第139号通知別添をもとに作成)

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
122	酵素処理ヘスペリジン (「ヘスペリジン」にシクロデキストリン、グルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加して得られたものをいう。)	糖転移ヘスペリジン 糖転移ビタミンP	ヘスペリジン	※	強化剤	Enzymatically Modified Hesperidin
123	酵素処理ルチン(抽出物) (「ルチン(抽出物)」から得られた、α-グルコシルルチンを主成分とするものをいう。)	糖転移ルチン(抽出物)	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	※	酸化防止剤 強化剤 着色料	Enzymatically Modified Rutin (Extract)
124	酵素処理レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、ホスファチジルグリセロールを主成分とするものをいう。)		レシチン	※	乳化剤	Enzymatically Modified Lecithin
125	酵素分解カンゾウ (「カンゾウ抽出物」を酵素分解して得られた、グリテルレチン酸-3-グルクロニドを主成分とするものをいう。)		カンゾウ	※	甘味料	Enzymatically Hydrolyzed Licorice Extract
126	酵素分解リンゴ抽出物 (リンゴの果実を酵素分解して得られた、カテキン類及びクロロゲン酸を主成分とするものをいう。)		リンゴ抽出物 リンゴエキス	※	酸化防止剤	Enzymatically decomposed apple extract
127	酵素分解レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、ホスファチジン酸及びビリゾレシチンを主成分とするものをいう。)		レシチン	※	乳化剤	Enzymatically Decomposed Lecithin
128	酵母細胞壁 (サッカロミセスの細胞壁から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		酵母細胞膜	※	増粘安定剤 製造用剤	Yeast Cell Wall
129	コウリヤン色素 (コウリヤンの種子から得られた、アピゲニン及びルテオリニンジンを主成分とするものをいう。)	キビ色素	フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料	Kaoliang Color
130	コチニール色素 (エンジムシから得られた、カルミン酸を主成分とするものをいう。)	カルミン酸色素	カルミン酸 コチニール	※	着色料	Cochineal Extract Carminic Acid
131	骨炭 (ウシの骨から得られた、炭末及びリン酸カルシウムを主成分とするものをいう。)			※	製造用剤	Bone Charcoal
132	ゴマ油不けん化物 (ゴマの種子から得られた、セサモリンを主成分とするものをいう。)		ゴマ油抽出物	※	酸化防止剤	Sesame seed oil unsaponified matter
133	ゴマ柄灰抽出物 (ゴマの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)			※	製造用剤	Sesame straw ash extract
134	ゴム (パラゴムの分泌液から得られた、ポリイソプレンを主成分とするものをいう。ただし、「低分子ゴム」を除く。)	カウチョック		※	ゴムベース	Rubber
135	ゴム分解樹脂 (「ゴム」から得られた、ジテルペン、トリテルペン及びテトラテルペンを主成分とするものをいう。)			※	ゴムベース	Resin of depolymerized natural rubber
136	コメヌカ油抽出物 (米ぬか油から得られた、フェルラ酸を主成分とするものをいう。)		コメヌカ油不けん化物	※	酸化防止剤	Rice Bran Oil Extract
137	コメヌカ酵素分解物 (脱脂米ぬかから得られた、フィテン酸及びペプチドを主成分とするものをいう。)			※	酸化防止剤	Enzymatically decomposed rice bran
138	コメヌカワックス (米ぬか油から得られた、リグノセリン酸ミリスチルを主成分とするものをいう。)	植物ワックス ライスワックス		※	ゴムベース 光沢剤	Rice Bran Wax
139	サイリウムシードガム (フロンドサイリウムの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	サイリウムハスク	サイリウム	※	増粘安定剤	Psyllium Seed Gum
140	サトウキビワックス (サトウキビの茎から得られた、パルミチン酸ミリスチルを主成分とするものをいう。)	カーンワックス ケーンワックス	植物ワックス	※	ゴムベース	Cane Wax
141	サバクヨモギシードガム (サバクヨモギの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	アルテミシアシードガム サバクヨモギ種子多糖類		※	製造用剤 増粘安定剤	Artemisia Seed Gum
142	酸性白土		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Acid Clay
143	酸性ホスファターゼ	ホスホモノエステラーゼ		※	酵素	Acid Phosphatase
144	酸素			O ₂	製造用剤	Oxygen
145	シアノコバラミン	ビタミンB ₁₂	V. B ₁₂	※	強化剤	Cyanocobalamin
146	セラック (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、アレウリン酸とシエロール酸又はアレウリン酸とジャラル酸のエステルを主成分とするものをいう。)	セラック		※	ゴムベース 光沢剤	Shellac
	セラック(白セラック)	セラック(白セラック)	白セラック 白セラック 白ラック	※		Shellac (White Shellac)
	セラック(精製セラック)	セラック(精製セラック)	精製セラック 精製セラック	※		Shellac (Purified Shellac)
147	セラックロウ (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、ろう分を主成分とするものをいう。)	セラックロウ		※	ゴムベース 光沢剤	Shellac Wax
148	ジェランガム (シュードモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ジェラン多糖類	ジェラン	※	増粘安定剤	Gellan Gum
149	ジェルトン (ジェルトンの分泌液から得られた、アミリンアセテート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)	ボンチアナック		※	ゴムベース	Jelutong
150	シクロデキストリン	サイクロデキストリン	環状オリゴ糖	※	製造用剤	Cyclodextrin
	α-シクロデキストリン	α-サイクロデキストリン		※		α-Cyclodextrin
	β-シクロデキストリン	β-サイクロデキストリン		※		β-Cyclodextrin
	γ-シクロデキストリン	γ-サイクロデキストリン		※		γ-Cyclodextrin
	分岐シクロデキストリン(粉末品)	分岐サイクロデキストリン (粉末品)	分岐サイクロデキストリン 分岐シクロデキストリン	※		Branched Cyclodextrin (Powder)

既存添加物名簿収載品目リスト

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
令和7年2月7日現在
(H27.3.30消費表第139号通知別添をもとに作成)

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
151	シクロデキストリン(グルコトランスフェラーゼ)		トランスフェラーゼ	※	酵素	Cyclodextrin glucanotransferase
152	L-システイン		システイン	※	調味料 強化剤	L-Cystine
153	シソ抽出物 (シソの種子又は葉から得られた、テルペノイドを主成分とするものをいう。)	シソエキス		シソ科シソ (<i>Perilla crispa</i> TANAKA) の種子又は葉より、酸性水溶液又は温時含水エタノールで抽出したもから得られたものである。主成分はテルペノイドである。	製造用剤	Perilla Extract
154	サンダル色素 (サンダルの幹枝から得られた、サンタリンを主成分とするものをいう。)	サンダルウッド色素	サンダルウッド フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料	Sandalwood Red
155	5'-シチジル酸		5'-CMP	※	強化剤	5'-Cytidylic Acid
156	ジャマイカカシヤ抽出物 (ジャマイカカシヤの幹枝又は樹皮から得られた、クアシン及びネオクアシンを主成分とするものをいう。)	カシヤエキス	カシヤ	※	苦味料等	Jamaica Quassia Extract
157	ショウガ抽出物 (ショウガの根茎から得られた、ショウガオール及びジンゲロールを主成分とするものをいう。)	ジンジャー抽出物	ジンジャー抽出物	ショウガ科ショウガ (<i>Zingiber officinale</i> ROSC.) の根茎より、室温時エタノール、アセトン又はヘキサンで抽出して得られたものである。主成分はジンゲロール類及びショウガオール類である。	製造用剤	Ginger extract
158	焼成カルシウム (うに殻、貝殻、造礁サンゴ、ホエイ、骨又は卵殻を焼成して得られた、カルシウム化合物を主成分とするものをいう。)		焼成Ca		強化剤 製造用剤	Calcinated Calcium
	うに殻焼成カルシウム		うに殻カルシウム うに殻Ca	※		Calcinated Sea Urchin Shell Calcium
	貝殻焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	※		Calcinated Shell Calcium
	骨焼成カルシウム	骨カルシウム	骨Ca	※		Calcinated Bone Calcium
	造礁サンゴ焼成カルシウム		コーラルカルシウム コーラルCa サンゴカルシウム サンゴCa	※		Calcinated Coral Calcium
	乳清焼成カルシウム	乳清第三リン酸カルシウム ホエイ第三リン酸カルシウム ホエイリン酸カルシウム ホエイリン酸三カルシウム	乳清第三リン酸カルシウム 乳清リン酸Ca ホエイリン酸カルシウム ホエイリン酸Ca	※		Calcinated Whey Calcium
	卵殻焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	※		Calcinated Eggshell Calcium
159	植物性ステロール (油種種子から得られた、フィトステロールを主成分とするものをいう。)	フィトステロール	ステロール	油種種子を粉砕し、抽出して得られた植物性油脂より、室温時～温時メタノール、エタノール、イソプロパノール、酢酸エチル、アセトン、又はヘキサンで抽出したものより得られたものである。主成分はフィトステロールである。	乳化剤	Vegetable Sterol
	植物性ステロール (遊離体高濃度品)	フィトステロール (遊離体高濃度品)		※		Vegetable Sterol (High Concentration Free Sterol)
	植物性ステロール (遊離体低濃度品)	フィトステロール (遊離体低濃度品)		※		Vegetable Sterol (Low Concentration Free Sterol)
160	植物炭末色素 (植物を炭化して得られた、炭素を主成分とするものをいう。)	炭末色素	炭末	※	着色料	Vegetable Carbon Black
161	植物レシチン (アブラナ又はダイズの種子から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン		アブラナ科アブラナ (<i>Brassica campestris</i> LINNE)、マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子より得られた油脂より、分離して得られたものである。主成分はレシチンである。	乳化剤	Vegetable lecithin
162	しらこたん白抽出物 (魚類の精巢から得られた、塩基性タンパク質を主成分とするものをいう。)	しらこたん白	核たん白 しらこ	※	保存料	Milt Protein
163	水素			H ₂	製造用剤	Hydrogen
164	ステビア抽出物 (ステビアの葉から抽出して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)	ステビアエキス ステビオシド レバウジオシド ステビオシド レバウジオシド	ステビア ステビア甘味料	※	甘味料	Stevia Extract
	ステビア末 (ステビアの葉を粉砕して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)		ステビア	※		Steviol Glycosides
165	スピルリナ色素 (スピルリナの全葉から得られた、フィコシアニンを主成分とするものをいう。)	スピルリナ青色素	スピルリナ青	※	着色料	Spirulina Color
167	スフィンゴ脂質 (米ぬかから得られた、スフィンゴシン誘導体を主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子又は小麦 (<i>Triticum aestivum</i> LINNE) の胚芽から得られた米ぬかより、室温時～温時エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出したものより得られたものである。主成分はスフィンゴシン誘導体である。	乳化剤	Sphingolipid
168	生石灰			※	製造用剤	Quicklime
169	精油除去ウイキョウ抽出物 (ウイキョウの種子から得られた、グルコシルシナピラルアルコールを主成分とするものをいう。)	精油除去フェネル抽出物		※	酸化防止剤	Essential Oil Removed Fennel Extract
170	セイヨウワサビ抽出物 (セイヨウワサビの根から得られた、イソチオシアナートを主成分とするものをいう。)	ホースラディッシュ抽出物		※	酸化防止剤	Horseradish Extract
171	ゼイン (トウモロコシの種子から得られた、植物性タンパク質を主成分とするものをいう。)	トウモロコシたん白		イネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子を粉末化したものより、エタノール又はアセトンで抽出し、精製して得られたものである。主成分はプロタミンに属する植物性タンパク質である。	製造用剤	Zein
172	ゼオライト		不溶性鉱物性物質		製造用剤	Zeolite
173	セージ抽出物 (サルビアの葉から得られた、カルノシン酸及びフェノール性ジテルペンを主成分とするものをいう。)			シソ科サルビア (<i>Salvia officinalis</i> LINNE) の葉より、水、エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。有効成分はフェノール性ジテルペノイド (ジテルペン) 及びカルノシン酸である。	酸化防止剤	Sage extract
174	セピオライト			鉱石セピオライトを、粉砕して得られたものである。主成分はイノケイ酸のマグネシウム塩である。	製造用剤	Sepiolite
175	L-セリン		セリン	※	調味料 強化剤	L-Serine
176	セルラーゼ	繊維素分解酵素	カルボヒドラーゼ	※	酵素	Cellulase
177	粗製海水塩化カリウム (海水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、塩化カリウムを主成分とするものをいう。)			※	調味料	Crude Potassium Chloride (Sea Water)

既存添加物名簿収載品目リスト

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
令和7年2月7日現在
(H27.3.30消費表第139号通知別添をもとに作成)

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
178	粗製海水塩化マグネシウム (海水から塩化カリウム及び塩化ナトリウムを析出分離して得られた、塩化マグネシウムを主成分とするものをいう。)	塩化マグネシウム含有物		※	製造用剤	Crude Magnesium Chloride (Sea Water)
179	ソバ柄灰抽出物 (ソバの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)		植物灰抽出物	タデ科ソバ (<i>Fagopyrum esculentum</i> MOENCH.) の茎又は葉を灰化したものより、熱湯水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。	製造用剤	Buckwheat ash extract
180	ソルバ (ソルバの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)	ペリージョ ベンダーレ レッツェカスピ		キョウチクトウ科ソルバ (<i>Couma macrocarpa</i> BARB. RODR.) の幹枝から得られたラテックスを、熱湯水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソプレンである。	ガムベース	Sorva Leche caspi
181	ソルビンハ (ソルビンハの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)	ソルバペケーニヤ		キョウチクトウ科ソルビンハ (<i>Couma utilis</i> MUELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱湯水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソプレンである。	ガムベース	Sorvinha
182	ダイズサポニン (ダイズの種子から得られた、サポニンを主成分とするものをいう。)		サポニン	マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子を粉砕し、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたものである。主成分はサポニン (ソヤサポニン等) である。	乳化剤	Soybean saponin
183	タウマチン (タウマトコッカスダニエリの種子から得られた、タウマチンを主成分とするものをいう。)	ソーマチン		※	甘味料	Thaumatococin
184	タウリン (抽出物) (魚類又はほ乳類の臓器又は肉から得られた、タウリンを主成分とするものをいう。)		タウリン	※	調味料	Taurine (Extract)
185	タマネギ色素 (タマネギのりん茎から得られた、クエルセチンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素 野菜色素	※	着色料	Onion Color
186	タマリンド色素 (タマリンドの種子から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料	Tamarind Color
187	タマリンドシードガム (タマリンドの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	タマリンドガム タマリンド種子多糖類	タマリンド	※	増粘安定剤	Tamarind Seed Gum
188	タラガム (タラの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			※	増粘安定剤	Tara Gum
189	タルク		不溶性鉱物性物質	※	ガムベース 製造用剤	Talc
190	胆汁末 (胆汁から得られた、コール酸及びデソキシコール酸を主成分とするものをいう。)	コール酸 デソキシコール酸		動物の胆汁を、粉末化して得られたものである。主成分はコール酸及びデソキシコール酸である。	乳化剤	Powdered bile
191	単糖・アミノ酸複合物 (アミノ酸と単糖類の混合物を加熱して得られたものをいう。)		糖・アミノ酸複合物	※	酸化防止剤	Amino Acid-Sugar Reaction Product
192	タンナーゼ			※	酵素	Tannase
193	タンニン (抽出物) (カキの果実、五倍子、タラ末、没食子又はミモザの樹皮から得られた、タンニン及びタンニン酸を主成分とするものをいう。)	タンニン酸 (抽出物)	タンニン タンニン酸		製造用剤	Tannin (extract)
	柿タンニン	柿渋 柿抽出物		カキ科カキ (<i>Diospyros kaki</i> THUNB.) の実より、搾汁したもの、又は水若しくはエタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。		Tannin of persimmon
	植物タンニン			※		Vegetable Tannin
	ミモザタンニン			マメ科ミモザ (<i>Acacia dealbata</i> LINNE) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。		Tannin of silver wattle
194	チクル (サボジラの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)	クラウンガム チクブル ニスベロ		※	ガムベース	Chicle
195	窒素		N ₂		製造用剤	Nitrogen
196	チャ乾留物 (チャの葉を乾留して得られたものをいう。)			ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より製した茶を、乾留して得られたものである。有効成分は特定できないが、アミノ酸、カフェイン、タンニン、カテキン類を含む。	製造用剤	Tea dry distillate
197	チャ抽出物 (チャの葉から得られた、カテキン類を主成分とするものをいう。)	ウーロンチャ抽出物 紅茶抽出物 緑茶抽出物		※	酸化防止剤 製造用剤	Tea Extract
198	チルテ (チルテの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科チルテ (<i>Onidoscolus elasticus</i> LUNDELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱湯水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソプレンである。	ガムベース	Chilte
199	L-チロシン		L-チロジン チロシン チロジン	※	調味料 強化剤	L-Tyrosine
200	ツヌー (ツヌーの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			クワ科ツヌー (<i>Castilla fallax</i> COOK) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したもので得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソプレンである。	ガムベース	Tunu
201	ツャブリジン (抽出物) (ヒバの幹枝又は根から得られた、ツャブリジン類を主成分とするものをいう。)	ヒノキチオール (抽出物)	ヒノキチオール	※	保存料	Thuajaplicin (Extract) Hinokitiol (Extract)
202	5-デアミンナーゼ			※	酵素	5'-Deaminase
203	低分子ゴム (バラゴムの分泌液を分解して得られた、ポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科バラゴム (<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを、加熱分解して得られたもの、又は酵素分解して得られたものである。主成分はシスポリイソプレンである。	ガムベース	Depolymerized natural rubber
204	テオブロミン			アオギリ科カカオ (<i>Theobroma cacao</i> LINNE) の種子、アオギリ科コーラ (<i>Cola acuminata</i> SCHOTT et ENDL.) の種子又はツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より、水又はエタノールで抽出し、分離して得られたものである。成分はテオブロミンである。	苦味料等	Theobromine
205	デキストラナーゼ			※	酵素	Dextranase
206	デキストラン		ブドウ糖多糖	※	増粘安定剤	Dextran
207	鉄			⁵⁴ Fe, ⁵⁶ Fe, ⁵⁷ Fe, ⁵⁸ Fe	強化剤 製造用剤	Iron

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
208	デュナリエラカロテン (デュナリエラの実から得られた、β-カロテンを主成分とするものをいう。)	藻類カロテン 藻類カロテン デュナリエラカロテン ドナリエラカロチン ドナリエラカロチン 抽出カロチン 抽出カロチン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素	※	強化剤 着色料	Dunaliella Carotene
209	銅			⁶³ Cu, ⁶⁵ Cu	製造用剤	Copper
210	トウガラシ色素 (トウガラシの実から得られた、カプサンチン類を主成分とするものをいう。)	カプシカム色素 パプリカ色素	カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	※	着色料	Paprika Color Paprika Oleoresin
211	トウガラシ水性抽出物 (トウガラシの実から抽出して得られた、水溶性物質を主成分とするものをいう。)	カプシカム水性抽出物 パプリカ水性抽出物	カプシカム抽出物 パプリカ抽出物	※	製造用剤	Capsicum Water-soluble Extract
212	動物性ステロール (魚油又は「ラノリン」から得られた、コレステロールを主成分とするものをいう。)	コレステロール	ステロール	※	乳化剤	Cholesterol
213	トコトリエンール			※	酸化防止剤	Tocotrienol
214	d-α-トコフェロール	α-ビタミンE	抽出V.E トコフェロール α-トコフェロール ビタミンE V.E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	d-α-Tocopherol
215	d-γ-トコフェロール	γ-ビタミンE	抽出V.E トコフェロール γ-トコフェロール ビタミンE V.E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	d-γ-Tocopherol
216	d-δ-トコフェロール	δ-ビタミンE	抽出V.E トコフェロール δ-トコフェロール ビタミンE V.E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	d-δ-Tocopherol
217	トマト色素 (トマトの実から得られた、リコピンを主成分とするものをいう。)	トマトリコピン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素 野菜色素	※	着色料	Tomato Color
218	トラガントガム (トラガントの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		トラガント	※	増粘安定剤	Tragacanth Gum
219	トランスグルコシダーゼ			※	酵素	Transglucosidase
220	トランスグルタミナーゼ			※	酵素	Transglutaminase
221	トリプシン			※	酵素	Trypsin
222	トレハロース			※	製造用剤	Trehalose
223	トレハロースホスホリラーゼ			※	酵素	Trehalose Phosphorylase
224	トロロアオイ (トロロアオイの根から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			アオイ科トロロアオイ (<i>Abelmoschus manihot</i> MED.) の根を、乾燥、粉砕して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Tororoaoi
225	納豆菌ガム (納豆菌の培養液から得られた、ポリグルタミン酸を主成分とするものをいう。)	納豆菌粘質物	ポリグルタミン酸	※	増粘安定剤 製造用剤	Bacillus Natto Gum
226	ナフサ	石油ナフサ		石油蒸留物を、精製して得られたものである。成分はパラフィン系及びナフタレン系炭化水素である。	製造用剤	Petroleum naphtha
227	生コーヒー豆抽出物 (コーヒーの種子から得られた、クロロゲン酸及びポリフェノールを主成分とするものをいう。)			アカネ科コーヒー (<i>Coffea arabica</i> LINNE) の種子より、温時アスコルビン酸又はクエン酸酸性水溶液で抽出して得られたものである。有効成分は、クロロゲン酸及びポリフェノールである。	酸化防止剤	Coffee Bean Extract
	生コーヒー豆抽出物 (ペースト品、液体品)			※		Coffee Bean Extract (Paste, Liquid)
228	ナリンギナーゼ	ナリンギナーゼ		※	酵素	Naringinase
229	ナリンギン	ナリンギン		※	苦味料等	Naringin
230	ニガーグッタ (ニガーグッタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			クワ科ニガーグッタ (<i>Ficus platyphlla</i> DELILE.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Niger gutta
231	ニガヨモギ抽出物 (ニガヨモギの全草から得られた、セスキテルペンを主成分とするものをいう。)		ニガヨモギ	キク科ニガヨモギ (<i>Artemisia absinthium</i> LINNE) の全草より、水又は室温時エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセスキテルペン (アブシンチン等) である。	苦味料等	Absinth extract
232	ニッケル			⁵⁸ Ni, ⁶⁰ Ni, ⁶¹ Ni, ⁶² Ni, ⁶⁴ Ni	製造用剤	Nickel
233	ニンジンカロテン (ニンジンの根から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	キャロットカロチン キャロットカロチン ニンジンカロチン 抽出カロチン 抽出カロチン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素	※	強化剤 着色料	Carrot Carotene
234	ばい煎コメヌカ抽出物 (米ぬかから得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の米ぬかを脱脂し、ばい煎したもの、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去したものである。成分としてマルトールを含む。	製造用剤	Roasted rice bran extract
235	ばい煎ダイズ抽出物 (ダイズの種子から得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子を脱脂し、ばい煎したもの、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去して得られたものである。成分としてマルトールを含む。	製造用剤	Roasted soybean extract
236	パーオキシダーゼ	ペルオキシダーゼ		※	酵素	Peroxidase
237	白金			¹⁹² Pt, ¹⁹⁴ Pt, ¹⁹⁵ Pt, ¹⁹⁶ Pt, ¹⁹⁸ Pt	製造用剤	Platinum
238	パパイン			※	酵素	Papain
239	パーム油カロテン (アブラヤシの実から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	パーム油カロチン 抽出カロチン 抽出カロチン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素	※	強化剤 着色料	Palm Oil Carotene
240	パーライト		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Perlite

既存添加物名簿収載品目リスト

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
令和7年2月7日現在
(H27.3.30消費表第139号通知別添をもとに作成)

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
241	パラジウム			¹⁰² Pd, ¹⁰⁴ Pd, ¹⁰⁵ Pd, ¹⁰⁶ Pd, ¹⁰⁸ Pd, ¹¹⁰ Pd	製造用剤	Palladium
242	パラフィンワックス	パラフィン		※	ガムベース 光沢剤	Paraffin Wax
243	パンクレアチン			※	酵素	Pancreatin
244	ヒアルロン酸		ムコ多糖	※	製造用剤	Hyaluronic Acid
245	微結晶セルロース (バルブから得られた、結晶セルロースを主成分とするものをいう。)	結晶セルロース	セルロース	※	製造用剤	Microcrystalline Cellulose
246	微小繊維状セルロース (バルブ又は綿を微小繊維状にして得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)		セルロース	※	増粘安定剤 製造用剤	Microfibrillated Cellulose
247	L-ヒステジジン		ヒステジジン	※	調味料 強化剤	L-Histidine
248	ビートレッド (ビートの根から得られた、イソペタニン及びペタニンを主成分とするものをいう。)	アカビート色素	アカビート 野菜色素	※	着色料	Beet Red
249	L-ヒドロキシプロリン	L-オキシプロリン	オキシプロリン ヒドロキシプロリン	※	調味料 強化剤	L-Hydroxyproline
250	ヒマワリ種子抽出物 (ヒマワリの種子から得られた、イソクロゲン酸及びクロロゲン酸を主成分とするものをいう。)	ヒマワリエキス ヒマワリ種子エキス ヒマワリ抽出物	ヒマワリ種子	キク科ヒマワリ (<i>Helianthus annuus</i> LINNE) の種子又は種子の搾油相より、熱時水又は含水エタノールで抽出して得られたものである。有効成分はイソクロゲン酸及びクロロゲン酸である。	酸化防止剤	Sunflower seed extract
251	ひる石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したひる石を、1000℃で焼成し、洗浄した後、乾燥して得られたものである。主成分はケイ酸塩である。	製造用剤	Vermiculite
252	ファーセラン (フルセラリアの全葉から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			ススカケベニ科フルセラリア (<i>Furcellaria fastigiata</i> HUD.) の全葉より、熱時水又はアルカリ性水溶液で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Furcellaran
253	ファフィア色素 (ファフィアの培養液から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	酵母 (<i>Phaffia rhodozyma</i> MILLER) の培養液より、室温時アセトン、エタノール、含水エタノール、ヘキサン又はこれらの混合液で抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主色素はアスタキサンチンである。橙～赤色を呈する。	着色料	Phaffia colour
254	フィシン	ファイシン		※	酵素	Ficin
255	フィターゼ		ホスホヒドロラーゼ	※	酵素	Phytase
256	フィチン酸 (米ぬか又はトウモロコシの種子から得られた、イノシトールヘキサリン酸を主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られた米ぬか又はイネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子より、室温時水又は酸性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。主成分はイノシトールヘキサリン酸である。	酸味料 製造用剤	Phytic Acid
	フィチン酸 (液体品)			※		Phytic Acid (Liquid)
	フィチン酸 (粉末品)			※		Phytic Acid (Powder)
257	フィチン (抽出物) (米ぬか又はトウモロコシの種子から得られた、イノシトールヘキサリン酸マグネシウムを主成分とするものをいう。)		フィチン	※	製造用剤	Phytin (Extract)
258	フェルラ酸			※	酸化防止剤	Ferulic Acid
259	フクロノリ抽出物 (フクロノリの全葉から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		フクロノリ多糖類 フクロノリ多糖類 フクロノリ抽出物	※	増粘安定剤	Fukuronori Extract
260	ブタン			石油若しくは天然ガス成分中、n-ブタンの沸点付近の留分である。	製造用剤	Butane
261	ブドウ果皮色素 (アメリカブドウ又はブドウの果皮から得られた、アントシアニンを主成分とするものをいう。)	エノシアン	アントシアニン アントシアニン色素 ブドウ色素	※	着色料	Grape Skin Extract Grape Skin Color
262	ブドウ果皮抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの果皮から得られた、ポリフェノールを主成分とするものをいう。)			ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> LINNE) 又はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> LINNE) のうち、生食用又は醸造用ブドウの甲州、シャルドネ若しくはリースリング種の果皮搾粕より、室温時～微温時エタノールで抽出して得られたものである。主成分はポリフェノールである。	製造用剤	Grape skin-derived substance
263	ブドウ種子抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの種子から得られた、プロアントシアニジンを主成分とするものをいう。)		プロアントシアニジン	※	酸化防止剤 製造用剤	Grape Seed Extract
264	ブラジルカンゾウ抽出物 (ブラジルカンゾウの根から得られた、ペリアンドリンを主成分とするものをいう。)	ペリアンドリン	ブラジルカンゾウ	マメ科ブラジルカンゾウ (<i>Periandra dulcis</i> MART.) の根より、水で抽出したもので得られたものである。甘味成分はペリアンドリンである。	甘味料	Brazilian licorice extract
265	フルクトシルトランスフェラーゼ			※	酵素	Fructosyl Transferase
266	プルラーナーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Pullulanase
267	プルラン			※	増粘安定剤 製造用剤	Pullulan
268	プロテアーゼ	たん白分解酵素		※	酵素	Protease
269	プロパン			石油若しくは天然ガス成分中、n-プロパンの沸点付近の留分である。	製造用剤	Propane
270	プロポリス抽出物 (ミツバチの巣から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)			ミツバチ科ミツバチ (<i>Apis mellifera</i> LINNE, <i>Apis indica</i> RODOSZKOWSKI) の巣より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイドである。	酸化防止剤	Propolis extract
271	ブロメリン		ブロメリン	※	酵素	Bromelain
272	L-プロリン液		プロリン	※	調味料 強化剤	L-Proline
	L-プロリン			※		L-Proline Solution
273	分別レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、スフィンゴミエリン、フォスファチジルイノシトール、フォスファチジルエタノールアミン及びフォスファチジルコリンを主成分とするものをいう。)	レシチン分別物 レシチン		「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」より、室温時～温時メタノール、エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出して得られたものである。主成分は、フォスファチジルコリン、フォスファチジルエタノールアミン、フォスファチジルイノシトール、スフィンゴミエリンである。	乳化剤	Fractionated lecithin Cephalin Lipoinositol
274	粉末セルロース (バルブを分解して得られた、セルロースを主成分とするものをいう。ただし、「微結晶セルロース」を除く。)		セルロース	※	製造用剤	Powdered Cellulose
275	粉末モミガラ (イネのもみ殻から得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) のもみ殻を、微粉砕して得られたものである。主成分はセルロースである。	ガムベース	Powdered rice hulls
276	ペカンナッツ色素 (ピーカンの果皮又は渋皮から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)	ピーカンナッツ色素	フラボノイド フラボノイド色素	クルミ科ピーカン (<i>Carya pecan</i> ENGL. et GRAEBN.) の果皮又は渋皮より、熱時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの又は熱時酸性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。褐色を呈する。	着色料	Pecan nut colour

既存添加物名簿収載品目リスト

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
令和7年2月7日現在
(H27.3.30消費第139号通知別添をもとに作成)

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
277	ヘキサン			※	製造用剤	Hexane
278	ペクチナーゼ		カルボヒドラーゼ	※	酵素	Pectinase
279	ペクチン			※	増粘安定剤	Pectin
280	ペクチン分解物 (「ペクチン」から得られた、ガラクトuron酸を主成分とするものをいう。)		分解ペクチン	※	保存料	Pectin Digests
281	ヘスペリジン			※	酵素	Hesperidinase
282	ヘスペリジン	ビタミンP		※	強化剤	Hesperidin
283	ベタイン			※	調味料	Betaine
284	ベニコウジ黄色素 (ベニコウジカビの培養液から得られた、キサントモナス菌類を主成分とするものをいう。)	モナスカス黄色素	紅麹 紅麹色素 モナスカス モナスカス色素	※	着色料	Monascus Yellow
285	ベニコウジ色素 (ベニコウジカビの培養液から得られた、アンカフラビン及びモナスコルブリンを主成分とするものをいう。)	モナスカス色素	紅麹 モナスカス	※	着色料	Monascus Color
286	ベニバナ赤色素 (ベニバナの花から得られた、カルタミンを主成分とするものをいう。)	カーサマス赤色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花赤 紅花色素	※	着色料	Carthamus Red
287	ベニバナ黄色素 (ベニバナの花から得られた、サフライエロー類を主成分とするものをいう。)	カーサマス黄色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花黄 紅花色素	※	着色料	Carthamus Yellow
288	ベネズエラチクル (ベネズエラチクルの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	カブーレ		アカテツ科ベネズエラチクル (Manilkara williamsii STANDL.) の幹枝より得られるラテックスを、脱水したもより得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Venezuelan chicle
289	ペプシン			※	酵素	Pepsin
290	ヘプタン			※	製造用剤	Heptane
291	ペプチダーゼ			※	酵素	Peptidase
292	ヘマトコッカス藻色素 (ヘマトコッカスの全藻から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	※	着色料	Haematococcus Algae Color
293	ヘミセルラーゼ	ペントサナーゼ	カルボヒドラーゼ	※	酵素	Hemicellulase
294	ヘム鉄			※	強化剤	Heme Iron
295	ヘリウム			⁴ He	製造用剤	Helium
296	ベントナイト		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Bentonite
297	ホスホジエステラーゼ			※	酵素	Phosphodiesterase
298	ホスホリパーゼ	ホスファチダーゼ レンチナーゼ		※	酵素	Phospholipase
299	没食子酸			※	酸化防止剤	Gallic Acid
300	ホホバロウ (ホホバの果実から得られた、イコセン酸イコセニルを主成分とするものをいう。)	ホホバワックス		ツゲ科ホホバ (Simmondsia californica NUTT.) の果実より採油したホホバ脂より、分離して得られた高融点ロウ物質である。主成分はイコセン酸イコセニルである。	ガムベース	Joboba wax
301	ポリフェノールオキシダーゼ	フェノラーゼ		※	酵素	Polyphenol Oxidase
302	ε-ポリリシン	ε-ポリリジン	ポリリジン	※	保存料	ε-Polylysine
303	マイクロクリスタリンワックス	マイクロクリスタリンワックス		※	ガムベース 光沢剤	Microcrystalline Wax
304	マクロホモプシスガム (マクロホモプシスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	マクロホモプシス多糖類		※	増粘安定剤	Macrophomopsis Gum
305	マステック (ヨウニウコウの分泌液から得られた、マステカジエノン酸を主成分とするものをいう。)			ウルシ科ヨウニウコウ (Pistacia lentisous LINNE) の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去し、熱時エタノールで抽出し、エタノールを留去して得られたものである。主構成成分はマステカジエノン酸である。	ガムベース	Mastic gum
306	マッサランドバチョコレート (マッサランドバチョコレートの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科マッサランドバチョコレート (Manilkara solimoensis GILLY.) の幹枝より得られたラテックスを、熱湯で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Massaranduba chocolate
307	マッサランドババラタ (マッサランドババラタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科マッサランドババラタ (Manilkara huberi (DUCKE) CHEVAL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱湯で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Massaranduba balata
308	マリーゴールド色素 (マリーゴールドの花から得られた、キサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素 マリーゴールド	※	着色料	Marigold Color
309	マルトースホスホリラーゼ			※	酵素	Maltose Phosphorylase
310	マルトリオリヒドラーゼ	G3生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Maltotriohydrolase
311	未焼成カルシウム (貝殻、真珠の真珠層、造礁サンゴ、骨又は卵殻を乾燥して得られた、カルシウム塩を主成分とするものをいう。)		未焼成Ca		強化剤	Non-calcinated calcium
	貝殻未焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	貝殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated shell calcium
	骨末焼成カルシウム		骨カルシウム 骨Ca	獣骨又は魚骨を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分はリン酸カルシウムである。		Non-calcinated bone calcium
	サンゴ未焼成カルシウム	コーラルカルシウム サンゴカルシウム	コーラルCa サンゴCa	※		Non-calcinated Coral Calcium
	真珠層未焼成カルシウム		真珠層カルシウム 真珠層Ca	ウグイスガイ科アコヤガイ (Pinctada fucata) から得られる真珠の核を除いた真珠層を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated mother-of-pearl layer calcium
	卵殻未焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	卵殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated eggshell calcium
312	ミックストコフェロール (植物性油脂から得られた、d-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。)	ミックスビタミンE	抽出V.E トコフェロール ビタミンE V.E ミックスV.E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	Mixed Tocopherols
313	ミツロウ (ミツバチの巣から得られた、パルミチン酸ミリスルを主成分とするものをいう。)	オウロウ ビースワックス ペースワックス		※	ガムベース 光沢剤	Bees Wax

既存添加物名簿記載品目リスト

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
令和7年2月7日現在
(H27.3.30消費表第139号通知別添をもとに作成)

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
314	ミルラ (ボツヤクの分泌液から抽出して得られたものをいう。)	ミル		※	ガムベース	Myrrh
315	ムラサキイモ色素 (サツマイモの塊根から得られた、シアニジンアシルグルコシド及びペオニジンアシルグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 野菜色素	※	着色料	Purple Sweet Potato Color
316	ムラサキトウモロコシ色素 (トウモロコシの種子から得られた、シアニジン-3-グルコシドを主成分とするものをいう。)	ムラサキコーン色素	アントシアニン アントシアニン色素	※	着色料	Purple Corn Color
317	ムラサキヤマイモ色素 (ヤマイモの塊根から得られた、シアニジンアシルグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 ムラサキヤマイモ野菜色素	ヤマイモ科ヤマイモ (<i>Dioscorea alata</i> LINNE) の紫色の塊根より、室温時水又は弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジンアシルグルコシドである。紫赤色を呈する。	着色料	Purple yam colour
318	ムラミダーゼ			※	酵素	Muramidase
319	メナキノン (抽出物) (アルトロバクターの培養液から得られた、メナキノンを主成分とするものをいう。)	ビタミンK ₂ (抽出物)	ビタミンK ₂ ビタミンK V.K ₂ V.K メナキノン	※	強化剤	Menaquinone (Extract) Vitamin K2 (Extract)
320	メバロン酸			※	製造用剤	Mevalonic Acid
321	メラロイカ精油 (メラロイカの葉から得られた、精油を主成分とするものをいう。)			フトモモ科メラロイカ (<i>Melaleuca alternifolia</i> CHEEL) の葉より、水蒸気蒸留により得られたものである。成分は精油 (α-テルピネン及びγ-テルピネン等) である。	酸化防止剤	Melaleuca oil
322	モウソウテウ乾留物 (モウソウテウの茎を乾留して得られたものをいう。)	竹乾留物		イネ科モウソウテウ (<i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.) の茎をチップ状にしたものを、減圧加熱下で乾留したものより得られたものである。	製造用剤	Mousouchiku dry distillate
323	モウソウテウ抽出物 (モウソウテウの茎の表皮から得られた、2,6-ジメトキシ-1,4-ベンゾキノンを主成分とするものをいう。)			イネ科モウソウテウ (<i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.) の茎の表皮を、粉砕したものであり、微温時エタノールで抽出して得られたものである。成分として2,6-ジメトキシ-1,4-ベンゾキノンを含む。	製造用剤	Mousouchiku extract
324	木材チップ (ハシバミ又はブナの幹枝を粉砕して得られたものをいう。)	シュベネ		カバノキ科ハシバミ (<i>Corylus heterophylla</i> FISCHER var. <i>thunbergii</i> BLUME) 又はブナ科ブナ (<i>Fagus crenata</i> BLUME) の幹枝を熱水殺菌したものを、粉砕して得られたものである。	製造用剤	Wood chip
325	木炭 (竹材又は木材を炭化して得られたものをいう。)			イネ科マダケ (<i>Phyllostachys bambusoides</i> SIEB. et ZUCC.) 若しくはイネ科モウソウテウ (<i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.) の茎又はカバノキ科シラカバ (<i>Betula platyphylla</i> SUKAT. var. <i>japonica</i> HARA)、チョウセンマツ (<i>Pinus koraiensis</i> SIEB. et ZUCC.)、ブナ科ウバメガシ (<i>Quercus phylliraeoides</i>) 等の幹枝又は種子を、炭化して得られたものである。	製造用剤	Charcoal
326	モクロウ (ハゼノキの果実から得られた、グリセリンパルミタートを主成分とするものをいう。)	日本ロウ	植物ワックス	※	カムベース	Japan Wax
327	木灰 (竹材又は木材を灰化して得られたものをいう。)			ブナ科ブナ (<i>Fagus crenata</i> BLUME) 等の幹枝を、灰化して得られたものである。	製造用剤	Timber ash
328	木灰抽出物 (「木灰」から抽出して得られたものをいう。)			ブナ科ブナ (<i>Fagus crenata</i> BLUME)、クスノキ科クスノキ (<i>Cinnamomum Camphora</i> SIEB.) 等の幹枝を灰化して得られた灰化物を、精製して得られたものである。	製造用剤	Timber ash extract
329	モモ樹脂 (モモの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ピーチガム		バラ科モモ (<i>Prunus persica</i> BATSCH) の幹枝の樹脂成分を、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Peach gum
330	ヤマモモ抽出物 (ヤマモモの果実、樹皮又は葉から抽出して得られたものをいう。)			※	酸化防止剤	Chinese Bayberry Extract
331	ユッカフォーム抽出物 (ユッカアラボレセンス又はユッカシジゲラの全草から得られた、サポニンを主成分とするものをいう。)	ユッカ抽出物	ユッカフォーム ユッカ・フォーム	※	乳化剤 製造用剤	Yucca Foam Extract
332	ラカンカ抽出物 (ラカンカの果実から得られた、モグロシド類を主成分とするものをいう。)	ラカンカエキス	ラカンカ	※	甘味料	Luohanguo Extract
333	ラクトパーオキシダーゼ			※	酵素	Lactoperoxidase
334	ラクトフェリン濃縮物 (ほ乳類の乳から得られた、ラクトフェリンを主成分とするものをいう。)		ラクトフェリン	※	製造用剤	Lactoferrin Concentrates
335	ラック色素 (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、ラックイ酸類を主成分とするものをいう。)	ラックイ酸	ラック	※	着色料	Lac Color
336	ラノリン (ヒツジの毛に付着するろう様物質から得られた、高級アルコールとα-ヒドロキシ酸のエステルを主成分とするものをいう。)	羊毛ロウ		※	ガムベース 光沢剤	Lanolin
337	ラムザンガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ラムザン多糖類	ラムザン	※	増粘安定剤	Rhamsan Gum
338	L-ラムノース		ラムノース	※	甘味料	L-Rhamnose
339	卵黄レシチン (卵黄から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン液		卵黄より得られた卵黄油より、分離して得られたものである。主成分はレシチンである。	乳化剤	Yolk lecithin
340	L-リジン L-リジン液	L-リジン L-リジン	リジン リジン	※ ※	調味料 強化剤	L-Lysine L-Lysine Solution
341	リゾチーム	卵白リゾチーム		※	酵素	Lysozyme
342	リパーゼ	脂肪分解酵素	エステラーゼ	※	酵素	Lipase
343	リボキシダーゼ			※	酵素	Lipoxygenase
344	D-リボース		リボース	※	甘味料	D-Ribose
345	流動パラフィン	ミネラルオイルホワイト	パラフィン	※	製造用剤	Liquid Paraffin
346	リンスターセルロース (ワタの単毛から得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)		セルロース	アオイ科ワタ (<i>Gossypium hirsutum</i> LINNE) の実の単毛を、精製して得られたものである。主成分はセルロースである。	製造用剤	Linter cellulose
347	ルチン酵素分解物 (「ルチン (抽出物)」から得られた、イソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)		イソクエルシトリン	※	酸化防止剤	Enzymatically Decomposed Rutin
348	ルチン (抽出物) (アズキの全草、エンジュのつぼみ若しくは花又はソバの全草から得られた、ルチンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド ルチン アズキ全草抽出物 エンジュ抽出物 ソバ全草抽出物	※	酸化防止剤 着色料	Rutin (Extract)
349	ルテニウム			⁹⁶ Ru, ⁹⁸ Ru, ⁹⁹ Ru, ¹⁰⁰ Ru, ¹⁰¹ Ru, ¹⁰² Ru, ¹⁰⁴ Ru	製造用剤	Ruthenium

既存添加物名簿収載品目リスト

公益財団法人 日本食品化学研究振興財団
令和7年2月7日現在
(H27.3.30消費第139号通知別添をもとに作成)

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
350	レイシ抽出物 (マンネンタケの菌糸体若しくは子実体又はその培養液から抽出して得られたものをいう。)	マンネンタケ抽出物	レイシ	サルノコシカケ目マンネンタケ (<i>Ganoderma lucidum</i> KARST.) の菌糸体若しくは子実体、又はその培養液より、水、エタノール又は二酸化炭素で抽出して得られたものである。	苦味料等	Mannentake extract
	レイシ抽出物 (子実体)			※		Carpophore Derived Mannentake Extract (Fruiting body)
351	レッチュデバカ (レッチュデバカの分泌液から得られた、アミリンエステルを主成分とするものをいう。)			クワ科レッチュデバカ (<i>Brosimum utile</i> (H. B. K.) PITT.) の幹枝から得られたラテックスを、熱湯で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンエステルである。	ガムベース	Leche de vaca
352	レンネット	キモシン レンニン		※	酵素	Rennet
353	L-ロイシン		ロイシン	※	調味料 強化剤	L-Leucine
354	ログウッド色素 (ログウッドの心材から得られた、ヘマトキシリンを主成分とするものをいう。)			マメ科ログウッド (<i>Haematoxylon campechianum</i>) の心材より、熱湯で抽出して得られたものである。主色素はヘマトキシリンである。黒褐色を呈する。	着色料	Logwood colour
355	ロシディンハ (ロシディンハの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ロジディンハ		アカテツ科シデロキシロン属 (<i>Sideroxylon</i>) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したものでより得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Rosidinha
356	ロジン (マツの分泌液から得られた、アビエチン酸を主成分とするものをいう。)	ロジン		※	ガムベース	Rosin
357	ローズマリー抽出物 (マンネンロウの葉又は花から得られた、カルニン酸、カルノソール及びロスマノールを主成分とするものをいう。)	マンネンロウ抽出物		シソ科マンネンロウ (<i>Rosmarinus officinalis</i> LINNE) の葉又は花より、二酸化炭素、温時～熱時含水エタノール若しくはエタノールで抽出して得られたもの、又は温時～熱時ヘキサン、メタノール若しくは含水メタノールで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。有効成分は、フェノール性ジテルペノイド (ロスマノール、カルノソール及びカルニン酸等) である。	酸化防止剤	Rosemary Extract
	ローズマリー抽出物 (水溶性)	マンネンロウ抽出物 (水溶性)		※		Rosemary Extract (Water Soluble)
	ローズマリー抽出物 (非水溶性)	マンネンロウ抽出物 (非水溶性)		※		Rosemary Extract (Water Insoluble)

※食品、添加物等の規格基準 (昭和34年厚生省告示第370号) 第2添加物の部D成分規格・保存基準各条の規定に従う。

なお、組換えDNA技術によって得られた生物を利用して製造された添加物の場合は、厚生労働大臣が定める安全性審査の手続きを経た旨が公表されていなければならない。